編集後記

2024年は，猛暑，頻発した豪雨災害，秋の高温など，気候変動が現実のものであることを感じながら過ごした1年間でした。元旦に発生した能登半島地震の被災地では，豪雨にも見舞われ，復興が進まないことも重い現実です。本年最終刊となる本号には，原著4編と公衆衛生活動報告1編が掲載されています。

平田らは，複数の既存資料に加え，全国がん登録情報を効果的に利用した生態学的研究を実施し，対策型大腸がん検診受診率や大腸がんの早期発見指標が市町村の人口構成や保健師数と関連するかを検討しました。保健所設置の有無，医療資源の多寡，精密検査受診率などの影響も示唆され，これらの分析結果をふまえた大腸がんの早期発見のための提言が行われています。大腸がんを評価対象として選定した理由や，解析結果の解釈に関する考察などが丁寧に記述されています。

保健師がその専門性を発揮する場や機会は多岐にわたり，重要な取り組みを展開していることは周知の事実ですが，岡本らは，保健師の価値，規範，求められる能力などが明確化されていないとの課題を提示しています。そのうえで，関係団体間の合意に基づく保健師のコアバリューやコンピテンシーを科学的手法により導出しました。専門職として，社会への説明責任を果たそうとする強い義務感が感じられる報告です。

海外旅行の際などに外国のタバコの警告パッケージを目にし，そのインパクトに驚いた経験のある読者も多いと思います。岩瀬らは，タバコの警告表示の効果をインターネット調査により分析した結果，喫煙の抑止や禁煙の促進などの効果は，文字のみよりも画像付きの警告表示の方が高かったことを根拠に，わが国でも画像付きパッケージを導入すべきと提言しています。調査に用いたパッケージ画像が論文中に紹介されていますのでご覧ください。

山田らは，地域の高齢者を対象として，新型コロナウイルス感染拡大時の社会活動の制限が睡眠時間に及ぼした影響を調査しました。社会参加や人とのつながり，運動時間が減少した結果，睡眠時間が減少した可能性を示し，感染拡大下でも実行可能な対策として，ICTを活用した交流や個人での運動などを提案しています。

関らによる公衆衛生活動報告は，2021年12月から2022年1月にかけて強化された，新型コロナウイルスオミクロン株に対する水際対策が保健所の業務に及ぼした影響に関するものです。頻回に変更された国の方針に対応しながら，病原体サーベイランスや疫学調査を実施した状況は全国の保健所と同様であったものの，羽田東京国際空港を管轄する大田区保健所では，航空機内濃厚接触者に関する業務が加わり，さらなる負担が生じていました。客観的なデータも用いて詳細に検証したうえでの提言の多くには説得力があります。

10月29日から31日にかけて，第83回日本公衆衛生学会総会が札幌市において開催されました。総会事務局によると，参加者数は3,600名を超えたとのことです。総会のテーマ「ともにいきる　協創を拓く対話」を象徴するように，示説会場をはじめとする会場のあらゆる場で質疑応答や交流が活発に行われていたことが印象的でした。編集委員会では，論文化し本誌への投稿を期待する演題に対し，推薦カードを発行しました。当然ながら，全ての演題を確認することは困難でしたので，推薦を受けていない演題の中にも，公衆衛生学的意義が高く，会員に広く周知する価値のある報告が含まれています。総会での発表を終え一安心した今，論文作成と本誌への投稿を積極的にご検討いただきますようお願いします。

（定金敦子）

次号予告（第72巻・第1号）

総　説
座位行動研究のUp to Date……安岡実佳子，他
原　著
対面による簡易ゲートキーパー教育が及ぼす中高年住民への心理的影響：反復横断デザインによる自殺に対する態度と抑うつの評価……大山博史，他
会食を行う通いの場における参加者減少に関連する要因：ソーシャルマーケティングの視点……五味達之祐，他
公衆衛生活動報告
対話を取り入れた自殺予防ゲートキーパー養成研修の実践とその評価……中川拓也，他
「高齢者が仕事として担うフレイル予防教室運営」の普及可能性と課題：埼玉県シルバー人材センター連合本部の取組……野藤　悠，他
資　料
乳幼児健康診査で把握される言語発達の遅れに関連する因子の検討……杉原麻理恵，他